

岡田宮

(宝永4年) 1707年 貝原益軒書

第38号

平成16年11月吉日
発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806-0033
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330

日本の神話と伝承

山の神様

— 大山祇神と娘たち —

日本神話で山の神様といえば、まず大山祇神が挙げられます。伊弉諾尊・伊弉冉尊のご夫婦から生まれた神様で、磐長姫と木花開耶姫という二人の娘をお持ちでした。

ある時、高天原から天下られた瓊杵尊（伊勢の神宮の御祭神・天照大御神のお孫様）が、笠汝の岬という所で美しい娘に出合われ、「そなたは誰の娘か」とお尋ねになると「私は大山祇神の娘で木花開耶姫と申します」と答えました。重ねて「兄弟があるか」と問われると「姉に磐長姫がおります」と言います。そこで「私はそなたと結婚しようと思うが、どうか」と仰せになりましたが、「私にはお答えできません。父の大山祇神が御返事申し上げます」と答えたので、尊は大山祇神に結婚の許しを乞う使いを差し向けました。すると大山祇神はたいそう喜んで、姉の磐長姫を添えて、たくさんの贈

り物を持たせて娘を差し出しました。ところが姉の方は醜女だったので、尊は恐れをなして送り返し、妹の木花開耶姫だけを留め、一夜の契りを交わしました。

大山祇神は磐長姫を返されたことをひどく恥じ、尊にこう申し送られました。「私が娘二人を一諸に差し上げたわけは、磐長姫をお使いになつては、天つ神の御子の命は、雨が降り風が吹いても永久なること岩のごとく不変でいらつしやるように、木花開耶姫をお使いになつては、木の花が咲き誇るように栄なされませ、と神に誓いをたてて奉つたのです。なのに磐長姫を返されて木花開耶姫だけをお留めになられましたからには、天つ神の御子のお命は木の花のようににはかないものとなられましよう。この時から、人の寿命は短くなつたとされています。

さて、木花開耶姫は、この一晩で

身籠り、産み月を迎えて瓊杵尊のもとに参上し、「私は身籠り出産の時を迎えました。この天つ神との間に生まれる御子は、こっそりと生むべきではありませんので申し上げます」と言うと、尊は「たった一夜で子が出来たというのか。それは私の子ではあるまい。きっと国つ神の子である」と仰せになりました。そこで姫は「私が身籠つた子がもし国つ神の子ならば、出産のときによくないことがあるでしょう。天つ神の子ならば無事に生まれるでしょう」と申し上げて、戸のない広い産屋を建てて中に入り、土で塗りふさぎ、産屋に火を付けて出産なさいました。火の勢いの盛んな時、少し鎮まつてから、すつかり火勢が収まつてからと、三人の男御子が無事お生まれになりました。このうち真ん中と末の兄弟が、海幸彦と山幸彦です。

このほか日本では古くから、山の神が春になると里に下りてきて豊穰を司る田の神になり、秋にはまた山に戻っていくという信仰があります。また、中世からは自分の妻のことを「山の神」と呼ぶようにもなりました。当時は山の神が怖いものの象徴とされていたことからのようです。

第10回 岡田神社書道展



●会期
平成16年 7月23日(金)
7月29日(木)

●表彰式
平成16年 7月29日(木)

●総出品点数
七六〇点

於 岡田宮本殿

- 岡田宮賞**
小2 櫻井 永祥
小3 丹後 美幸
小4 岩瀬 大輝
小5 勇 佑多
小6 南 有紀
中1 櫻井 加織
中2 御手洗愛美
中3 藤村麻衣子
- 継代会員賞**
小1 眞崎 茜
小2 茂司亜梨紗
小3 末吉 優奈
小4 天野真佑里
小5 茂司 卓治
小6 古原 和莉
中1 今西 陽香
中2 原野 靖子

- 特別賞**
小1 田中みゆり
小2 赤宗みゆき
小3 木下 智恵
小4 大庭ほのか
小5 吉田 佳子
小6 植 啓哉
中1 中野 悠
中2 梅田あゆみ
中3 千原 香澄
小3 池田 菜々
小3 和田 颯斗
小3 福田 竜

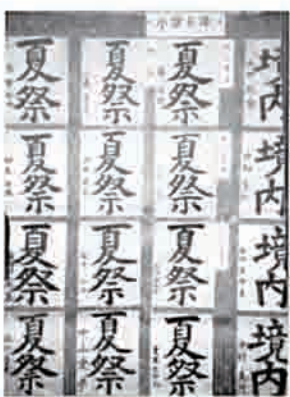
- 第十回記念賞**
小1 益本 勝利
小2 讃井 直之
小3 益本 大地
小4 西口 映美
小5 李 南垣
小6 木村鷹太郎
中1 重藤あやめ
中2 大田百合子
中3 池田 香織

- 小3 小宮 千鶴
安西 萌木
池田 永実
中村 春菜
高畑 明梨
中村 春菜
黄檗あや子
平田理佐子
井本 咲
川野 裕世
森江 泰子
中村 航大
三谷 結香
有田かおり
佐久田 惇
森賀 博征
吉田 拓人
藤田 夏美
澤田 愛花
馬場 萌
園田 依
緒方 礼
波谷 若菜
古井 千紘
石田 香歩
古賀 艶可
中村 妃良

- 小5 山田紗耶香
村上菜実子
日高 利行
森賀 千晶
佐藤 巨将
吉田さやか
池田 祥子
田口 茂樹
孫田 成美
古見 有那
田中 祥裕
山鹿 育恵
池田 亜矢
柴田 垂果
日高 真子
田原 詩織
古賀 拓也
中山 愛夢
坂口 愛未

- 小6 石田 敬子
吉岡 宏起
安西 慎奈
田中 利権
橋本 綾菜
篠原 武史
安藤 早紀
香川奈津美
守永 彩夏
阿南 穂佳
藤原 光子
木村 優里
北村 佳恵
江田 沙織
野中 楓
石橋 加菜
清水 希帆

- 小6 石田 敬子
吉岡 宏起
安西 慎奈
田中 利権
橋本 綾菜
篠原 武史
安藤 早紀
香川奈津美
守永 彩夏
阿南 穂佳
藤原 光子
木村 優里
北村 佳恵
江田 沙織
野中 楓
石橋 加菜
清水 希帆



郷土地名考

38

国見(くにみ)

八幡東区役所付近を、昭和三十六年(一九六一)まで国見町といった。皿倉山の頂上に国見岩がある。神功皇后がこの岩から三韓を見遙かしたという故事によるが、住居表示で中央に取り込まれてしまった。

今、国見岩から眺めてもとても朝鮮は見えない。昔は老岐、対馬まで肉眼で望めたという話

尾倉(おくら)

中世、小倉(おくら)の庄。これが字面の上で豊前の小倉と間違えやすいということから寛永年間(一七〇四〜一七一〇)読みはそのまま尾倉と改めた。

しかしこの小倉は、豊前小倉の起源にも関わりがありそうだ。だいたい小倉はコクラとは読まない。小倉百人一首、小倉院、小倉山、みなオグラであってコクラは小倉タイムスのある小倉だけ。東海から先の読者は今でもオグラといっている。小倉の地名起源は屯倉(みやけ)説、峡谷説、漁民の倉庫説、企救の浦の転化説、高句麗説と賑やかである。

キクノウラ||キクウラ||コクラ
またはコクリ||コクラへの転化は分るが、屯倉の字義によってコクラはいささかこじつけの感がある。むしろ尾倉の小倉のほうが小さな屯倉説に合致するのではあるまいか。大字尾倉の隣は大字大蔵、旧地名は大倉、大きな屯倉だ。



神社 なぜ問答

(その38)



鳥居（とりい）について教えて下さい。

私たちが神社にお参りをするとき、まず鳥居を目にします。鳥居は神社を表示し、また神社の神聖さを象徴する建造物ともいえます。鳥居は神社の内と外を分ける境に立てられ、鳥居の内は神様がお鎮まりになる御神域として尊ばれます。また、特定の神殿（本殿）を持たず、山など自然物を御神体、また依代（よりしろ）としてお祀りしている神社の中には、その前に鳥居が立てられ、神様の御存在を現すものとして重視されています。

鳥居の起源については、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩屋にお隠れになった際に、八百万の神々が鶏を鳴かせましたが、この

とき鶏が止まった木を鳥居の起源であるとする説や、外国からの渡来説などがあります。

鳥居は、その材質・構造も多種多様で、それぞれの神社により形態が異なります。一説には六十数種類の形態があるともいわれており、代表的なものとしては、鳥居上部の横柱が一直線になっている神明（しんめい）鳥居と、この横柱の両端が上向きに反っている明神（みょうじん）鳥居があります。このほか、形態では明神鳥居の横柱上部に合掌形の破風（はふ）のついた山王（さんのお）鳥居や、また朱塗りの稲荷鳥居など特徴的なものがあります。

起源や形態などさまざまではあります。鳥居を見ると神聖さを感じるの、我々日本人の共通した考え方ではないかと思えます。

編集部より

神道についての素朴な疑問等を募集しております。神社本庁教学研究部の協力でお答えします。御質問は紙面の都合上、基礎的な質問に限らせていただきます。質問者名等は掲載いたしません。名前、御連絡先は忘れずにお願います。



山王鳥居



明神鳥居



神明鳥居

平成十七年の厄年

厄年（男）

二十四才	前厄	昭和五十七年生
二十五才	大厄	五十六年生
二十六才	後厄	五十五年生
四十一才	前厄	四十年生
四十二才	大厄	三十九年生
四十三才	後厄	三十八年生
六十才	前厄	二十一年生
六十一才	大厄	二十年生
六十二才	後厄	十九年生

厄年（女）

十八才	前厄	昭和六十三年生
十九才	大厄	六十二年生
二十才	後厄	六十一年生
三十二才	前厄	四十九年生
三十三才	大厄	四十八年生
三十四才	後厄	四十七年生
三十六才	前厄	四十五年生
三十七才	大厄	四十四年生
三十八才	後厄	四十三年生

◆厄年大祭

二月節分日

年末年始の行事案内

●大祓式

十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となつて各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形式に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

●歳旦祭

一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事。

午前0時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き

一月二日～三日

一枚五百円でハズレなし。

一等はカラーTV、羽根ぶとんなどが当ります。新年の運だめしにどうぞ。

●どんど焼祭 一月十六日 巨

古くなつた縄、門松等を焼納する神事。

地元の有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

新お守り紹介

病氣平癒御守り 一〇〇〇円



招福まもり 五〇〇円



平成十七年

算賀の年祝

遷履	六十一才	昭和二十年生
古希	七十才	昭和十一年生
喜寿	七十七才	昭和四年生
傘寿	八十才	大正十五年生
米寿	八十八才	大正七年生
卒寿	九十才	大正五年生
白寿	九十九才	明治四十年生

健康長寿のお守り

お祓いを受けた方に差し上げております



神前結婚プラン

200,000 円

(税込み)

○挙式料・写真3ポーズ 2冊
(御一人・御二人・集合)

- お写真は、六切り (16 cm × 22 cm) です。
- ポーズ追加料金……1ポーズ ¥ 9,500
- 焼き増し料金……1枚 ¥ 5,250
- 色打掛・洋装追加プランもございます。

○美容・着付け・衣裳
(かつら・かんざし・紋付・白無垢)

(株) **有川** 写真館

TEL 0120-62-2080